

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|---|
| 授業科目 | 一般教養 I |
| 実務家教員授業 | |
| 学部・学科 | 保育専攻科 |
| 履修年次 | 1 年次 |
| 開講学期 | 前期 |
| 科目区分 | 必修 |
| 授業方法 | 講義 |
| 授業時間 | 30 時間 |
| 授業回数 | 15 回 |
| 授業概要 | ビジネスで一般的に使用される熟語、四字熟語、慣用句などを学ぶ |
| 授業の進め方 | テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る |
| 達成目標 | 一般教養として社会で求められる漢字能力を身に付けることを目的とする |
| 教科書 | オリジナルテキスト |
| 特記 | |
| 授業計画 | 1 訓読み・送り仮名① 2 訓読み・送り仮名② 3 熟語① 4 熟語② 5 熟語③ 6 異字同訓・同音異義 7 誤字訂正① 8 誤字訂正②・類義語 9 反対語 10 漢字の意味・使い方① 11 漢字の意味・使い方② 12 項目別模擬試験① 13 項目別模擬試験② 14 直前模擬試験① 15 直前模擬試験② |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 授業内試験100% 演習授業内における試験の得点 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|--|
| 授業科目 | キャリアデザイン I |
| 実務家教員授業 | |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 前期 |
| 科目区分 | 必修 |
| 授業方法 | 講義 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | 面接試験において求められるビジネスマナーの基礎を学ぶ |
| 授業の進め方 | テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る |
| 達成目標 | 面接の入退室および自己PRができるようになる |
| 教科書 | オリジナルテキスト |
| 特記 | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 面接の基本 2 入退室の仕方 3 スーツの着こなし、身嗜み確認 4 自己PR作成① 5 自己PR作成② 6 自己PR作成③ 7 面接質問項目① 8 面接質問項目② 9 面接質問項目③ 10 会計事務所・企業研究① 11 会計事務所・企業研究② 12 模擬面接練習① 13 模擬面接練習② 14 模擬面接練習③ 15 模擬面接試験 |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 授業への参加姿勢、授業内レポートの得点 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|--|
| 授業科目 | キャリアデザインⅡ |
| 実務家教員授業 | |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 通年(後期) |
| 科目区分 | 必修 |
| 授業方法 | 講義 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | 会社などの組織を理解し、最低限身につけなければならないスキルの学習 |
| 授業の進め方 | テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る |
| 達成目標 | 会社などの組織を理解し、最低限身につけなければならないスキルの習得 |
| 教科書 | オリジナルテキスト |
| 特記 | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 働くとは 2 業界研究 3 企業研究① 4 企業研究② 5 志望動機の作り方① 6 志望動機の作り方② 7 志望動機の作り方③ 8 志望動機の作り方④ 9 志望動機の作り方⑤ 10 書類送付方法 11 ビジネス電話 12 ビジネスメール 13 内定後学習① 14 内定後学習② 15 内定後学習③ |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 授業への参加姿勢、授業内レポートの得点 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|---|
| 授業科目 | 保育キャリアデザイン |
| 実務家教員授業 | |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 後期 |
| 科目区分 | 必修 |
| 授業方法 | 講義 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | 就職活動の心構え・準備内容を理解する |
| 授業の進め方 | テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る |
| 達成目標 | 就職活動に対する意識付け及び実践的な演習により、活動の準備を万全に行う |
| 教科書 | オリジナルテキスト |
| 特記 | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 就職の心構え 2 職業理解 3 自己分析① 4 自己分析② 5 自己PR 6 志望動機 7 作文・小論文 8 履歴書作成 9 一般常識 10 適性検査 11 質疑応答① 12 質疑応答② 13 面接試験 14 面接試験演習① 15 面接試験演習② |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 授業への参加姿勢、授業内レポートの得点 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|---|
| 授業科目 | パソコン演習 |
| 実務家教員授業 | |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 後期 |
| 科目区分 | 必修 |
| 授業方法 | 演習 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | パソコンでの演習を通して操作方法を学ぶ |
| 授業の進め方 | テキスト、配布プリントを使用して実践力を養う |
| 達成目標 | 卒業後必要となる知識・技術を身につける |
| 教科書 | オリジナルテキスト、配布プリント |
| 特記 | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 パソコンの基本的操作とインターネットの利用法、ネチケット 2 文書の作成と管理 3 一般的なビジネス文書の作成 4 シンプルなレポートや報告書の作成 5 ビジネス文書の作成方法の復習 6 イラストや図形を使ったビジュアルな文書の作成 7 写真の挿入や加工方法① 8 写真の挿入や加工方法② 9 画像の編集方法① 10 画像の編集方法② 11 画像の編集方法③ 12 HPの作成・活用方法① 13 HPの作成・活用方法② 14 HPの作成・活用方法③ 15 HPの作成・活用方法④ |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と課題提出、試験により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|---|
| 授業科目 | 図画工作 |
| 実務家教員授業 | |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 前期 |
| 科目区分 | 必修 |
| 授業方法 | 演習 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | 図画工作の基礎を学ぶ |
| 授業の進め方 | 個人作成、グループ作成 |
| 達成目標 | 絵画、工作の基礎技術を身につける |
| 教科書 | 配布プリント・資料 |
| 特記 | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 デッサン（静物）① 2 デッサン（静物）② 3 デッサン（自画像）① 4 デッサン（自画像）② 5 絵の具を使った絵画① 6 絵の具を使った絵画② 7 工作（切り紙）① 8 工作（切り紙）② 9 工作（行事に合わせて）① 10 工作（行事に合わせて）② 11 工作（廃材使用）① 12 工作（廃材使用）② 13 工作（廃材使用）③ 14 年齢に合った制作① 15 年齢に合った制作② |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と作品（制作物）により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|--|
| 授業科目 | 音楽・リズム表現 I |
| 実務家教員授業 | |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 前期 |
| 科目区分 | 必修 |
| 授業方法 | 演習 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | リズムや楽器を活用した音楽を学ぶ |
| 授業の進め方 | 講義と実技を通して学ぶ |
| 達成目標 | 音楽リーダーとして、実践できるようにする |
| 教科書 | ダルクローズシステムによるリトミック、リズム練習とソルフェージュ1 |
| 特記 | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽表現① (弾き歌い・リズム遊び) 2 音楽表現② (弾き歌い・リズム遊び) 3 音楽表現③ (弾き歌い・リズム遊び) 4 音楽表現④ (弾き歌い・リズム遊び) 5 音楽表現⑤ (弾き歌い・リズム遊び) 6 季節の歌に合わせたリズム遊戯① 7 季節の歌に合わせたリズム遊戯② 8 季節の歌に合わせたリズム遊戯③ 9 季節の歌に合わせたリズム遊戯④ 10 季節の歌に合わせたリズム遊戯⑤ 11 音楽表現総合① (弾き歌い・リズム遊び・遊戯) 12 音楽表現総合② (弾き歌い・リズム遊び・遊戯) 13 音楽表現総合③ (弾き歌い・リズム遊び・遊戯) 14 音楽表現総合④ (弾き歌い・リズム遊び・遊戯) 15 音楽表現総合⑤ (弾き歌い・リズム遊び・遊戯) |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と実技試験により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|--|
| 授業科目 | 実習事前指導 |
| 実務家教員授業 | ○ |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 前期 |
| 科目区分 | 必修 |
| 授業方法 | 演習 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | 施設実習を円滑に進めるための知識・技術・態度について学ぶ |
| 授業の進め方 | グループワークと実技演習 |
| 達成目標 | 施設内で行う施設職員の様々な職業内容を理解する |
| 教科書 | 実習の記録と指導案、保育専門職と保育実践、配布プリント・資料 |
| 特記 | 実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（保育士資格・幼稚園教諭免許状・臨床発達心理士を有し、保健所・幼稚園・児童福祉施設等の現場にて、幼稚園教諭免許状として5年以上）を有する者 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 実習の概要・意義・目的の確認 2 実習先研究① 3 実習先研究② 4 実習先研究③ 5 実習生としての心構えの確認 6 実習生マナー① 7 実習生マナー② 8 実習生マナー③ 9 実習計画について 10 実習計画に基づく保育実践 11 考察について 12 考察について 13 日誌・記録の取り方① 14 日誌・記録の取り方② 15 日誌・記録の取り方③ |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と実技試験により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|---|
| 授業科目 | 保育・幼稚園実習 |
| 実務家教員授業 | ○ |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 前期 |
| 科目区分 | 必修 |
| 授業方法 | 実習 |
| 授業時間 | 60時間 |
| 授業回数 | 30回 |
| 授業概要 | 施設職員として必要な基礎知識や基礎技術を学ぶ |
| 授業の進め方 | 有識者の指導を基に実践的な知識や技術を学ぶ |
| 達成目標 | 施設内で行う施設職員の様々な業務内容を理解し、実践できるようにする |
| 教科書 | 実習の記録と指導案、保育専門職と保育実践、実習日誌 |
| 特記 | 実務家教員のうち実習担当者は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（保育士資格・幼稚園教諭免許状を有し、保育現場にて5年～10年以上）を有する者。また、実習指導者は保育所の現役職員 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 現場実習（オリエンテーション）① 2 現場実習（オリエンテーション）② 3 現場実習（見学・観察）① 4 現場実習（見学・観察）② 5 現場実習（見学・観察）③ 6 現場実習（見学・観察）④ 7 現場実習（見学・観察）⑤ 8 現場実習（見学・観察）⑥ 9 現場実習（見学・観察）⑦ 10 現場実習（見学・観察）⑧ 11 現場実習（参加体験）① 12 現場実習（参加体験）② 13 現場実習（参加体験）③ 14 現場実習（参加体験）④ 15 現場実習（参加体験）⑤ 16 現場実習（参加体験）⑥ 17 現場実習（参加体験）⑦ 18 現場実習（参加体験）⑧ 19 現場実習（参加体験）⑨ 20 現場実習（参加体験）⑩ 21 現場実習（参加体験）⑪ 22 現場実習（参加体験）⑫ 23 現場実習（部分実習）① 24 現場実習（部分実習）② 25 現場実習（部分実習）③ 26 現場実習（部分実習）④ 27 現場実習（部分実習）⑤ 28 現場実習（部分実習）⑥ 29 現場実習（部分実習）⑦ 30 現場実習（部分実習）⑧ |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 実習内容・実習簿評価により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|--|
| 授業科目 | 小児援助技術 I |
| 実務家教員授業 | ○ |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 前期 |
| 科目区分 | 必修 |
| 授業方法 | 演習 |
| 授業時間 | 60時間 |
| 授業回数 | 30回 |
| 授業概要 | 乳児、幼児とのかかわり方を演習を通して学ぶ |
| 授業の進め方 | 問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う |
| 達成目標 | 子どもの個別対応方法を身につける |
| 教科書 | 保育所保育指針、子どもの発達理解と援助 |
| 特記 | 実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（保育士資格・幼稚園教諭免許状・臨床発達心理士を有し、保健所・幼稚園・児童福祉施設等の現場にて、幼稚園教諭免許状として5年以上）を有する者 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 保育における子どもの理解 2 表現演習① 3 子どもに対する関わりと共感的理解 4 表現演習② 5 子どもの生活や遊び 6 表現演習③ 7 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 8 表現演習④ 9 子ども相互の関わりと関係づくり 10 表現演習⑤ 11 集団における経験と育ち 12 個別援助① 13 発達における葛藤やつまづき 14 個別援助② 15 保育の環境の理解と構成 16 個別援助③ 17 環境の変化や移行 18 個別援助④ 19 子ども理解のための観察・記録と省察・評価 20 個別援助⑤ 21 子ども理解のための職員間の対話 22 個別援助⑥ 23 子ども理解のための保護者との情報共有 24 個別援助⑦ 25 発達の課題に応じた援助と関わり 26 個別援助⑧ 27 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 28 個別援助⑨ 29 発達の連続性と就学への支援 30 効果測定 |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と実技試験により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|---|
| 授業科目 | 小児援助技術Ⅱ |
| 実務家教員授業 | ○ |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 通年 |
| 科目区分 | 必修 |
| 授業方法 | 演習 |
| 授業時間 | 60時間 |
| 授業回数 | 30回 |
| 授業概要 | 小児援助技術Ⅰで学んだ基礎を基に、自ら乳児、幼児とのかかわり方を考える |
| 授業の進め方 | 問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う |
| 達成目標 | 自ら対応方法の計画を立て対応方法を身につける |
| 教科書 | 保育所保育指針、子どもの発達理解と援助 |
| 特記 | 実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（保育士資格・幼稚園教諭免許状・臨床発達心理士を有し、保健所・幼稚園・児童福祉施設等の現場にて、幼稚園教諭免許状として5年以上）を有する者 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 子ども理解と保育のつながり 2 子どもの活動内容① 3 子どもの活動内容② 4 子どもの活動内容③ 5 場面を想定した保育の活動内容の実践① 6 場面を想定した保育の活動内容の実践② 7 場面を想定した保育の活動内容の実践③ 8 指導案の作成① 9 指導案の作成② 10 指導案の作成③ 11 指導案の作成④ 12 指導案の作成⑤ 13 指導案の作成⑥ 14 指導案の作成⑦ 15 指導案の作成⑧ 16 指導案に基づく実技① 17 指導案に基づく実技② 18 指導案に基づく実技③ 19 指導案に基づく実技④ 20 指導案に基づく実技⑤ 21 指導案に基づく実技⑥ 22 指導案に基づく実技⑦ 23 指導案に基づく実技⑧ 24 指導案に基づく実技⑨ 25 指導案に基づく実技⑩ 26 指導案に基づく実技⑪ 27 指導案に基づく実技⑫ 28 指導案に基づく実技⑬ 29 指導案に基づく実技⑭ 30 効果測定 |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と実技試験により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|--|
| 授業科目 | 医学と疾病 |
| 実務家教員授業 | |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 前期 |
| 科目区分 | 必修 |
| 授業方法 | 講義 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | 人体の基本的な仕組みや働き及び疾病について理解する |
| 授業の進め方 | テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る |
| 達成目標 | 人体構造の基礎と子どものかかりやすい疾病を理解する |
| 教科書 | 子どもの健康と安全、厚生労働省が発信する関連ガイドライン |
| 特記 | |
| 授業計画 | 1 人体の仕組み：構造① 2 人体の仕組み：構造② 3 人体の仕組み：構造③ 4 人体の仕組み：構造④ 5 人体の働き：機能① 6 人体の働き：機能② 7 人体の働き：機能③ 8 人体の働き：機能④ 9 疾病予防の基本 10 主な疾病と対応① 11 主な疾病と対応② 12 主な疾病と対応③ 13 主な疾病と対応④ 14 主な疾病と対応⑤ 15 確認テスト |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と試験により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|---|
| 授業科目 | ボランティア実践 |
| 実務家教員授業 | ○ |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 通年 |
| 科目区分 | 必修 |
| 授業方法 | 実習(実務経験のある教員による授業科目です) |
| 授業時間 | 60時間 |
| 授業回数 | 30回 |
| 授業概要 | ボランティア活動について学び、体験を通して対応スキルを向上させる |
| 授業の進め方 | 希望の職種などの外部施設でボランティア活動を行う |
| 達成目標 | ボランティアマインドを実践を通して学ぶ |
| 教科書 | 配布プリント・資料 |
| 特記 | 実務家教員は福祉施設等で勤務している現役職員 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 ボランティア活動とは 2 ボランティア活動と実習の違い 3 ボランティア活動の心構え① 4 ボランティア活動の心構え② 5 さまざまなボランティア 6 ボランティア活動方法① 7 ボランティア活動方法② 8 ボランティア活動方法③ 9 学内ボランティア実践又は外部ボランティア① 10 学内ボランティア実践又は外部ボランティア② 11 学内ボランティア実践又は外部ボランティア③ 12 学内ボランティア実践又は外部ボランティア④ 13 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑤ 14 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑥ 15 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑦ 16 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑧ 17 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑨ 18 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑩ 19 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑪ 20 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑫ 21 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑬ 22 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑭ 23 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑮ 24 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑯ 25 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑰ 26 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑱ 27 ボランティア活動報告① 28 ボランティア活動報告② 29 ボランティア活動報告③ 30 ボランティア活動報告④ |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席とレポートにより評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|---|
| 授業科目 | 障害児(者)援助論 |
| 実務家教員授業 | ○ |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 前期 |
| 科目区分 | 必修 |
| 授業方法 | 講義 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | 障害児や障害者の支援方法を学ぶ |
| 授業の進め方 | テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る |
| 達成目標 | 障害への理解と援助方法を理解する |
| 教科書 | 社会的養護と障害児保育 |
| 特記 | 実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験(保育士資格・幼稚園教諭免許状・臨床発達心理士を有し、保健所・幼稚園・児童福祉施設等の現場にて、幼稚園教諭免許状として5年以上)を有する者 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 対象別にみた障害の理解① 2 対象別にみた障害の理解② 3 対象別にみた障害の理解③ 4 対象別にみた障害の理解④ 5 対象別にみた障害の理解⑤ 6 障害児(者)自立支援① 7 障害児(者)自立支援② 8 障害児(者)自立支援③ 9 事例研究① 10 事例研究② 11 事例研究③ 12 事例研究④ 13 支援者の理解① 14 支援者の理解② 15 障害児(者)福祉の今後の課題 |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と試験により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|--|
| 授業科目 | 保育実践演習 I |
| 実務家教員授業 | ○ |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 前期 |
| 科目区分 | 必修 |
| 授業方法 | 演習 |
| 授業時間 | 60時間 |
| 授業回数 | 30回 |
| 授業概要 | 保育実習体験を振り返り、場面ごとの子どもとの対応シミュレーションを行う |
| 授業の進め方 | 問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う |
| 達成目標 | 場面に応じた子どもの対応方法を身につける |
| 教科書 | 保育専門職と保育実践 |
| 特記 | 実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（保育士資格・幼稚園教諭免許状・臨床発達心理士を有し、保健所・幼稚園・児童福祉施設等の現場にて、幼稚園教諭免許状として5年以上）を有する者 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実践演習とは 2 保育園実習経験から保育実践を振り返る① 3 保育園実習経験から保育実践を振り返る②（グループワーク） 4 児童福祉施設実習経験から保育実践を振り返る① 5 児童福祉施設実習経験から保育実践を振り返る②（グループワーク） 6 保育者としての配慮① 7 保育者としての配慮② 8 保育場面に応じた対応実践① 9 保育場面に応じた対応実践② 10 保育場面に応じた対応実践③ 11 保育場面に応じた対応実践④ 12 保育場面に応じた対応実践⑤ 13 保育場面に応じた対応実践⑥ 14 保育場面に応じた対応実践⑦ 15 保育場面に応じた対応実践⑧ 16 保育場面に応じた対応実践⑨ 17 保育場面に応じた対応実践⑩ 18 保育場面に応じた対応実践⑪ 19 保育場面に応じた対応実践⑫ 20 保育場面に応じた対応実践⑬ 21 保育場面に応じた対応実践⑭ 22 保育場面に応じた対応実践⑮ 23 保育場面に応じた対応実践⑯ 24 保育場面に応じた対応実践⑰ 25 保育場面に応じた対応実践⑱ 26 保育場面に応じた対応実践⑲ 27 保育場面に応じた対応実践 振り返り①（グループワーク） 28 保育場面に応じた対応実践 振り返り②（個人学習） 29 保育場面に応じた対応実践 振り返り③（個人学習） 30 保育場面に応じた対応実践 振り返り④（まとめ） |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と実技試験により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|---|
| 授業科目 | 保育実践演習Ⅱ |
| 実務家教員授業 | ○ |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 前期 |
| 科目区分 | 必修 |
| 授業方法 | 演習 |
| 授業時間 | 60時間 |
| 授業回数 | 30回 |
| 授業概要 | 地域子育て支援活動について学ぶ |
| 授業の進め方 | 問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う |
| 達成目標 | 地域の幼児・児童・保護者等の子育て支援を理解する |
| 教科書 | 保育専門職と保育実践 |
| 特記 | 実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（保育士資格・幼稚園教諭免許状・臨床発達心理士を有し、保健所・幼稚園・児童福祉施設等の現場にて、幼稚園教諭免許状として5年以上）を有する者 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 地域とのかかわり① 2 地域とのかかわり② 3 地域とのかかわり③ 4 地域とのかかわり④ 5 地域とのかかわり⑤ 6 地域とのかかわり⑥ 7 地域とのかかわり⑦ 8 地域とのかかわり 振り返り①（グループワーク） 9 地域とのかかわり 振り返り②（個人研究） 10 地域とのかかわり 振り返り③（まとめ 発表） 11 模擬保育行事運営① 12 模擬保育行事運営② 13 模擬保育行事運営③ 14 模擬保育行事運営④ 15 模擬保育行事運営⑤ 16 模擬保育行事運営⑥ 17 模擬保育行事運営⑦ 18 模擬保育行事運営 振り返り①（グループワーク） 19 模擬保育行事運営 振り返り②（個人研究） 20 模擬保育行事運営 振り返り③（まとめ 発表） 21 親子活動サポート研究① 22 親子活動サポート研究② 23 親子活動サポート研究③ 24 親子活動サポート研究④ 25 親子活動サポート研究⑤ 26 親子活動サポート研究⑥ 27 親子活動サポート研究⑦ 28 親子活動サポート研究 振り返り①（グループワーク） 29 親子活動サポート研究 振り返り②（個人研究） 30 親子活動サポート研究 振り返り③（まとめ 発表） |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と実技試験により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|--|
| 授業科目 | 保育実践演習Ⅲ |
| 実務家教員授業 | ○ |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 後期 |
| 科目区分 | 必修 |
| 授業方法 | 演習 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | 保育園で実施される様々なケースを想定し実践する |
| 授業の進め方 | 問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う |
| 達成目標 | 保育職としての意識を持たせる |
| 教科書 | 保育専門職と保育実践 |
| 特記 | 実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（保育士資格・幼稚園教諭免許状・臨床発達心理士を有し、保健所・幼稚園・児童福祉施設等の現場にて、幼稚園教諭免許状として5年以上）を有する者 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 保育現場を想定した保育実践① 2 保育現場を想定した保育実践② 3 保育現場を想定した保育実践③ 4 保育現場を想定した保育実践④ 5 保育現場を想定した保育実践⑤ 6 保育現場を想定した保育実践⑥ 7 保育現場を想定した保育実践⑦ 8 保育現場を想定した保育実践⑧ 9 保育現場を想定した保育実践⑨ 10 保育現場を想定した保育実践⑩ 11 保育現場を想定した保育実践⑪ 12 保育場面を想定した保育実践 振り返り①（グループワーク） 13 保育場面を想定した保育実践 振り返り②（個人研究） 14 保育場面を想定した保育実践 振り返り③（個人研究） 15 保育場面を想定した保育実践 振り返り④（まとめ） |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と実技試験により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|--|
| 授業科目 | 卒業研究 |
| 実務家教員授業 | |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 後期 |
| 科目区分 | 必修 |
| 授業方法 | 演習 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | 個人・グループにて研究項目を選択し、研究を進めより知識を深める |
| 授業の進め方 | 個人研究、グループ研究、全体発表 |
| 達成目標 | 卒業後必要となる知識・技術の理解を深める |
| 教科書 | オリジナルテキスト・レジュメ |
| 特記 | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 卒業研究に関する学習の進め方 2 研究テーマの理解 3 研究テーマの決定 4 研究テーマの個人研究① 5 研究テーマの個人研究② 6 研究テーマの個人研究③ 7 研究テーマの個人研究④ 8 研究テーマの個人研究⑤ 9 グループ研究① 10 グループ研究② 11 グループ研究③ 12 グループ研究④ 13 グループ研究⑤ 14 研究発表① 15 研究発表② |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席とレポートにより評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|--|
| 授業科目 | 児童レクリエーションⅠ |
| 実務家教員授業 | ○ |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 後期 |
| 科目区分 | 選択 |
| 授業方法 | 演習 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | 環境ごとの児童とのかかわり方を演習を通して学ぶ |
| 授業の進め方 | 問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う |
| 達成目標 | 環境の特徴を生かした児童のかかわり方を身につける |
| 教科書 | 配布プリント・資料 |
| 特記 | 実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（保育士資格・幼稚園教諭免許状・臨床発達心理士を有し、保健所・幼稚園・児童福祉施設等の現場にて、幼稚園教諭免許状として5年以上）を有する者 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 児童に必要な環境構成 2 健康に配慮した環境とは 3 安心・安全な環境とは 4 異年齢の集団に対する援助実践 5 屋内でのレクリエーション実践① 6 屋内でのレクリエーション実践② 7 屋内でのレクリエーション実践③ 8 屋内でのレクリエーション実践④ 9 屋外でのレクリエーション実践① 10 屋外でのレクリエーション実践② 11 屋外でのレクリエーション実践③ 12 屋外でのレクリエーション実践④ 13 屋外でのレクリエーション実践⑤ 14 季節を考慮したレクリエーション実践① 15 季節を考慮したレクリエーション実践② |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と実技試験により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|---|
| 授業科目 | 児童レクリエーションⅡ |
| 実務家教員授業 | ○ |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 後期 |
| 科目区分 | 選択 |
| 授業方法 | 演習 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | 自ら設定した対象に対し、援助計画の立案、実践の流れを演習を通して学ぶ |
| 授業の進め方 | 問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う |
| 達成目標 | 対象の研究、援助計画の立案、実践技術を一連の流れを通して身につける |
| 教科書 | 配布プリント・資料 |
| 特記 | 実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（保育士資格・幼稚園教諭免許状・臨床発達心理士を有し、保健所・幼稚園・児童福祉施設等の現場にて、幼稚園教諭免許状として5年以上）を有する者 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 援助計画について 2 対象に合わせたレクリエーション計画の作成① 3 対象に合わせたレクリエーション計画の作成② 4 対象に合わせたレクリエーション計画の作成③ 5 対象に合わせたレクリエーション計画の作成④ 6 対象に合わせたレクリエーション計画の作成⑤ 7 対象に合わせたレクリエーション実践① 8 対象に合わせたレクリエーション実践② 9 対象に合わせたレクリエーション実践③ 10 対象に合わせたレクリエーション実践④ 11 対象に合わせたレクリエーション実践⑤ 12 対象に合わせたレクリエーション実践⑥ 13 対象に合わせたレクリエーション実践⑦ 14 対象に合わせたレクリエーション実践⑧ 15 対象に合わせたレクリエーション実践⑨ |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と実技試験により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 | |
|--------------------|---|---------------|
| 授業科目 | 発達心理学 | |
| 実務家教員授業 | ○ | |
| 学部・学科 | こども保育学科 | |
| 履修年次 | 1年次 | |
| 開講学期 | 後期 | |
| 科目区分 | 選択 | |
| 授業方法 | 講義 | |
| 授業時間 | 30時間 | |
| 授業回数 | 15回 | |
| 授業概要 | 養護を実践している施設の現状を理解し、そこで必要なスキルを学ぶ | |
| 授業の進め方 | テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る | |
| 達成目標 | 成長の段階での養護について把握する | |
| 教科書 | 社会的養護と障害児保育 | |
| 特記 | 実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（保育士資格・幼稚園教諭免許状・臨床発達心理士を有し、保健所・幼稚園・児童福祉施設の現場にて、幼稚園教諭、心理判定員・巡回相談員等として5年以上、レクリエーションインストラクター公認指導員）を有する者 | |
| 授業計画 | 1 | 小児の発達段階① |
| | 2 | 小児の発達段階② |
| | 3 | 小児の発達段階③ |
| | 4 | 小児の発達段階④ |
| | 5 | 小児の発達段階⑤ |
| | 6 | 小児の心理① |
| | 7 | 小児の心理② |
| | 8 | 小児の心理③ |
| | 9 | 小児の心理④ |
| | 10 | 小児の心理⑤ |
| | 11 | 地域医療・地域福祉の活用① |
| | 12 | 地域医療・地域福祉の活用② |
| | 13 | 地域医療・地域福祉の活用③ |
| | 14 | 地域医療・地域福祉の活用④ |
| | 15 | 地域医療・地域福祉の活用⑤ |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と試験により評価 | |
| 備考 | | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|--|
| 授業科目 | 養護内容 |
| 実務家教員授業 | ○ |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 後期 |
| 科目区分 | 選択 |
| 授業方法 | 講義 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | 養護を実践している施設の現状を理解し、そこで必要なスキルを学ぶ |
| 授業の進め方 | テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る |
| 達成目標 | 広義の養護について全体像を把握する |
| 教科書 | 社会的養護と障害者保育 |
| 特記 | 実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（保育士資格・幼稚園教諭免許状・臨床発達心理士を有し、保健所・幼稚園・児童福祉施設等の現場にて、幼稚園教諭免許状として5年以上）を有する者 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 養護について① 2 養護について② 3 養護について③ 4 医療と養護① 5 医療と養護② 6 医療と養護③ 7 心身の健康① 8 心身の健康② 9 心身の健康③ 10 生命の保持と情緒の安定① 11 生命の保持と情緒の安定② 12 生命の保持と情緒の安定③ 13 自立支援① 14 自立支援② 15 自立支援③ |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と試験により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|--|
| 授業科目 | 音楽・リズム表現Ⅱ |
| 実務家教員授業 | |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 後期 |
| 科目区分 | 選択 |
| 授業方法 | 演習 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | 音楽がもつ様々な効果と音楽教育の重要性を学ぶ |
| 授業の進め方 | 講義と実技を通して学ぶ |
| 達成目標 | リトミックの基礎を身につける |
| 教科書 | ダルクローズシステムによるリトミック、リズム練習とソルフェージュ1 |
| 特記 | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践① 2 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践② 3 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践③ 4 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践④ 5 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑤ 6 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑥ 7 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑦ 8 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑧ 9 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑨ 10 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑩ 11 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑪ 12 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑫ 13 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑬ 14 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑭ 15 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑮ |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と実技試験により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 | |
|--------------------|-----------------------------------|--------------------|
| 授業科目 | 音楽・リズム表現Ⅲ | |
| 実務家教員授業 | | |
| 学部・学科 | こども保育学科 | |
| 履修年次 | 1年次 | |
| 開講学期 | 後期 | |
| 科目区分 | 選択 | |
| 授業方法 | 演習 | |
| 授業時間 | 30時間 | |
| 授業回数 | 15回 | |
| 授業概要 | 音楽がもつ様々な効果と音楽教育の重要性を学ぶ | |
| 授業の進め方 | 講義と実技を通して学ぶ | |
| 達成目標 | リトミックの応用を身につける | |
| 教科書 | ダルクローズシステムによるリトミック、リズム練習とソルフェージュ1 | |
| 特記 | | |
| 授業計画 | 1 | 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践① |
| | 2 | 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践② |
| | 3 | 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践③ |
| | 4 | 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践④ |
| | 5 | 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑤ |
| | 6 | 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑥ |
| | 7 | 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑦ |
| | 8 | 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑧ |
| | 9 | 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑨ |
| | 10 | 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑩ |
| | 11 | 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑪ |
| | 12 | 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑫ |
| | 13 | 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑬ |
| | 14 | 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑭ |
| | 15 | 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑮ |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と実技試験により評価 | |
| 備考 | | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|--|
| 授業科目 | 保育相談支援 |
| 実務家教員授業 | ○ |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 後期 |
| 科目区分 | 選択 |
| 授業方法 | 講義 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | 相談援助が必要な方に対する支援方法を学ぶ |
| 授業の進め方 | テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る |
| 達成目標 | 相談支援に必要な知識、技術、支援方法を理解する |
| 教科書 | 配布プリント・資料 |
| 特記 | 実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（保育士資格・幼稚園教諭免許状・臨床発達心理士を有し、保健所・幼稚園・児童福祉施設等の現場にて、幼稚園教諭免許状として5年以上）を有する者 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 相談支援の基本 2 相談支援が必要な様々な場面 3 相談支援に必要な技術① 4 相談支援に必要な技術② 5 相談支援に必要な技術③ 6 相談支援に必要な技術④ 7 DVの事例およびその保護者支援① 8 DVの事例およびその保護者支援② 9 DVの事例およびその保護者支援③ 10 障害受容の事例および保護者支援① 11 障害受容の事例および保護者支援② 12 障害受容の事例および保護者支援③ 13 個人面談について 14 個人面談事例研究 15 相談援助のまとめ |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と試験により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|---|
| 授業科目 | 表現と言葉 |
| 実務家教員授業 | ○ |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 後期 |
| 科目区分 | 選択 |
| 授業方法 | 演習 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | 保育所保育指針に示す5領域のうち「表現」について演習を通して学ぶ |
| 授業の進め方 | 問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う |
| 達成目標 | 対象年齢に合わせた言葉掛けやアプローチ方法を身につける |
| 教科書 | 保育所保育指針 |
| 特記 | 実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（保育士資格・幼稚園教諭免許状・臨床発達心理士を有し、保健所・幼稚園・児童福祉施設等の現場にて、幼稚園教諭免許状として5年以上）を有する者 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 表現とは 2 5領域における表現① 3 5領域における表現② 4 素話① 5 素話② 6 素話③ 7 様々な表現① 8 様々な表現② 9 様々な表現③ 10 様々な表現④ 11 様々な表現⑤ 12 様々な表現⑥ 13 年齢に合わせた言葉掛け① 14 年齢に合わせた言葉掛け② 15 効果測定 |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と実技試験により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|--|
| 授業科目 | 地域子育て支援 |
| 実務家教員授業 | ○ |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 後期 |
| 科目区分 | 選択 |
| 授業方法 | 演習 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | 地域における子育て支援の重要性を学ぶ |
| 授業の進め方 | 問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う |
| 達成目標 | 地域子育て支援の具体的支援方法及び技法を習得する |
| 教科書 | 子ども家庭支援 |
| 特記 | 実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（保育士資格・幼稚園教諭免許状・臨床発達心理士を有し、保健所・幼稚園・児童福祉施設等の現場にて、幼稚園教諭免許状として5年以上）を有する者 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの保育とともにを行う保護者の支援 2 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 3 保護者や家庭の抱える支援のニーズへのきずきと多面的な理解 4 子ども及び保護者の状況・状態の把握 5 支援の計画と環境の構成 6 支援の実践・記録・評価・カンファレンス 7 職員間の連携・協働 8 社会的資源の活用と自治体・関連機関や専門職との連携・協働 9 保育所等における支援 10 地域の子育て家庭に対する支援 11 障害のある子ども及びその家庭に対する支援 12 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 13 子どもの虐待の予防と対応 14 要保護児童等の過程に対する支援 15 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解 |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と試験により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|---|
| 授業科目 | 保護者と家庭支援 |
| 実務家教員授業 | ○ |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 後期 |
| 科目区分 | 選択 |
| 授業方法 | 講義 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | 子育て支援とその実際を実践事例等を通して具体的に理解する |
| 授業の進め方 | 講義と事例を通して学ぶ |
| 達成目標 | 子育て中の保護者支援、家庭支援、連携機関について理解する |
| 教科書 | 子ども家庭支援 |
| 特記 | 実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（保育士資格・幼稚園教諭免許状・臨床発達心理士を有し、保健所・幼稚園・児童福祉施設等の現場にて、幼稚園教諭免許状として5年以上）を有する者 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 子ども家庭支援の意義と必要性 2 子ども家庭支援の目的と機能 3 子育て支援施設・次世代育成支援施設の推進 4 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 5 保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義 6 子どもの育ちの喜びの共有 7 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 8 保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等） 9 家庭の状況に応じた支援 10 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 11 子ども家庭支援の内容と対象 12 保育所等を利用する子どもの過程への支援 13 地域の子育て家庭への支援 14 要保護児童等及びその家庭に対する支援 15 子育て支援に関する課題と展望 |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と試験により評価 |
| 備考 | |

授業概要(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|--|
| 授業科目 | ビジネスマナー実践 |
| 実務家教員授業 | |
| 学部・学科 | こども保育学科 |
| 履修年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 後期 |
| 科目区分 | 選択 |
| 授業方法 | 演習 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | 業界、企業、施設で必要なマナーを演習を通して学ぶ |
| 授業の進め方 | 問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う |
| 達成目標 | 社会人としての意識の向上を図る |
| 教科書 | オリジナルテキスト・配布プリント・資料 |
| 特記 | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 社会人と学生との違い（働くとは） 2 仕事選びの基準 3 業界研究 4 企業研究① 5 企業研究② 6 企業研究③ 7 企業研究④ 8 様々な社会保障について 9 他業種との連携① 10 他業種との連携② 11 業界時事① 12 業界時事② 13 業界時事③ 14 業界時事④ 15 効果測定 |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席と実技試験により評価 |
| 備考 | |

授業計画書(シラバス)

| タイトル | 内容 |
|--------------------|---|
| 授業科目 | 保育現場実践演習 I |
| 実務家教員授業 | ○ |
| 学部・学科 | こども保育専攻科 |
| 履修年次 | こども保育学科 |
| 開講学期 | 後期 |
| 科目区分 | 選択 |
| 授業方法 | 実習 |
| 授業時間 | 30時間 |
| 授業回数 | 15回 |
| 授業概要 | 今までの保育実習の経験をもとに、様々な業務を経験し、知識や技術を学ぶ。 |
| 授業の進め方 | 有識者の指導を基に、より実践的な知識、技術を学ぶ。 |
| 達成目標 | 自ら課題を立て、その課題を意識しつつ行動できる。 |
| 教科書 | オリジナルテキスト・配布プリント・資料 |
| 特記 | 実務家教員は保育所又は児童福祉施設で勤務している現役職員 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 保育現場実習とは 2 保育現場実習の心構え 3 さまざまな保育現場実習体験 4 現場実習先の研究 5 保育現場実習（オリエンテーション）① 6 保育現場実習（オリエンテーション）② 7 保育現場実習（見学・観察）① 8 保育現場実習（見学・観察）② 9 保育現場実習（参加体験）① 10 保育現場実習（参加体験）② 11 保育現場実習（参加体験）③ 12 保育現場実習（部分実習）① 13 保育現場実習（部分実習）② 14 保育現場実習（部分実習）③ 15 振り返り |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席とレポートにより評価 |
| 備考 | |

授業計画書(シラバス)

| タイトル | 内容 | |
|--------------------|-----------------------------------|--------------------|
| 授業科目 | 保育現場実践演習Ⅱ | |
| 実務家教員授業 | ○ | |
| 学部・学科 | こども保育専攻科 | |
| 履修年次 | こども保育学科 | |
| 開講学期 | 後期 | |
| 科目区分 | 選択 | |
| 授業方法 | 実習 | |
| 授業時間 | 30時間 | |
| 授業回数 | 15回 | |
| 授業概要 | 自らテーマを定め、テーマに合わせた乳幼児について観察・考察を行う。 | |
| 授業の進め方 | 有識者の指導を基に、より実践的な知識、技術を学ぶ。 | |
| 達成目標 | 即戦力となる新人保育士と同等の行動ができる。 | |
| 教科書 | オリジナルテキスト・配布プリント・資料 | |
| 特記 | 実務家教員は保育所又は児童福祉施設で勤務している現役職員 | |
| 授業計画 | 1 | 乳幼児の現状の理解 |
| | 2 | 障害児の受け入れ① |
| | 3 | 障害児の受け入れ② |
| | 4 | 現場実習先の研究 |
| | 5 | 保育現場実習（オリエンテーション）① |
| | 6 | 保育現場実習（オリエンテーション）② |
| | 7 | 保育現場実習（見学・観察）① |
| | 8 | 保育現場実習（見学・観察）② |
| | 9 | 保育現場実習（参加体験）① |
| | 10 | 保育現場実習（参加体験）② |
| | 11 | 保育現場実習（参加体験）③ |
| | 12 | 保育現場実習（部分実習）① |
| | 13 | 保育現場実習（部分実習）② |
| | 14 | 保育現場実習（部分実習）③ |
| | 15 | 振り返り |
| 成績評価方法 (試験実施方法) | 出席とレポートにより評価 | |
| 備考 | | |